

高齢者の冬期の外出機会の創出に向けた調査研究

－ その 1. 予備調査結果と歩行支援マップの試作－

Research for the creation of the going out opportunity of the winter season of the elderly person

－ 1. Preliminary investigation result and Trial manufacture of walk support map －

金村直俊¹, 富田真未², 鈴木英樹³

Naotoshi KANEMURA¹, Mami TOMITA², Hideki SUZUKI³

ウインターライフ推進協議会

Winter Life Promotion Council, Sapporo, Japan

1. はじめに

高齢化社会の進展により、札幌市においても高齢者の比率は年々増加してきている。これに伴い冬期の転倒事故の増加とともに、外出機会減少による体力低下や引きこもりが懸念されてきている。そこで、本調査研究では、高齢者の冬期の外出機会の創出に向け、現在の課題の把握と今後求められる対策について明らかとするための予備調査等を実施した。

2. 高齢者を対象とした予備調査

2.1 対象者

予備調査は、札幌市に在住する主に65歳以上の高齢者で、市内で開催される転倒予防教室参加者を対象とした。転倒予防教室とは冬期歩行時等で転ばないコツを学ぶためのものである。また普段から介護予防センター職員や理学療法士等からも意見を聴取した。

2.2 調査方法

転倒予防教室参加者に対して、アンケート票(A4で2ページ)を配布、その場で記入いただき、回収する方法とした。また、介護予防センター職員や理学療法士に対してはヒアリングを実施した。

2.3 調査内容

アンケート調査では、冬期の外出に関する意向、外出時に注意していること、冬期間歩行時に障害となるもの、情報を入手する媒体等について調査した。ヒアリング調査では、高齢者の雪道での転倒に関する関心や不安事項、冬期間歩行時に障害となるもの、雪道での転倒防止対策等につ

いて聞き取った。

2.4 調査結果

アンケートでは平成23年12月中に計6回開催された介護予防教室参加者から270件の回答を得た。65歳以上が全体の89%であった。年齢別の内訳を図1に示す。ヒアリングは4名に対して実施した。

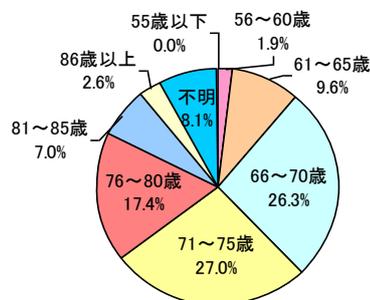


図-1 アンケート調査結果：回答者の年齢構成

高齢者から回答を得たアンケート調査の結果のうち、主要なものについて以下に示す。

回答者のうち、全体の7割が過去の雪道で転倒した経験を有し、転倒場所は歩道や横断歩道が多くなっていた。また転倒後に病院へ行った経験を持つ方は全体の21%であった。夏期と冬期の外出頻度を調査した結果、「ほぼ毎日」は53% (夏期) から30% (冬期) まで大幅に減少し、逆に週に1~2回及び月に1~2回という回答が増えていた (図2)。

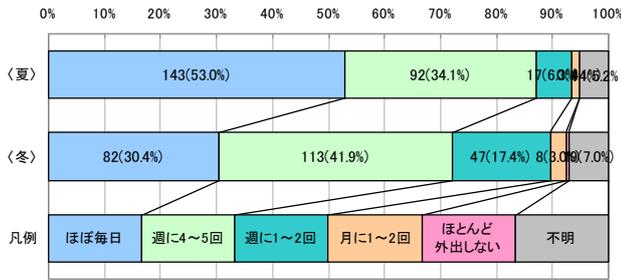


図-2 アンケート調査結果：夏期と冬期の外出頻度の比較

外出機会が減少する理由としては、「雪道で滑って転倒するのが怖い」が75件と最も多く、次いで「雪や寒さが嫌いなため」が46件であった(図3)。冬道を歩くために解消してほしい路面について調査した結果、最も多かったのは「凍結路面(179件)」で、回答者の67%が選択していた。その他には「傾斜のある路面」や「歩道と車道にできる段差」等、積雪時の歩道の構造に起因するものが挙げられていた(図4)。外出するために必要な(有ると良い)情報については、「その日の歩道路面の滑りやすさの情報」のほか、「歩くときに注意が必要な場所の情報」、「転びにくい歩き方の情報」という回答が多かった。

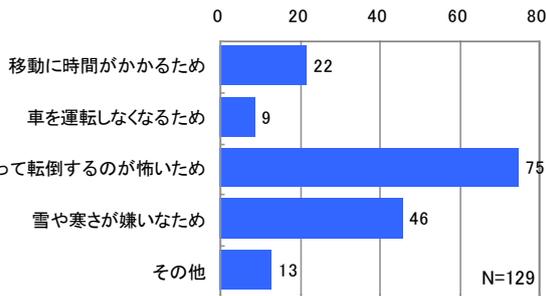


図-3 アンケート調査結果：冬期外出しない理由

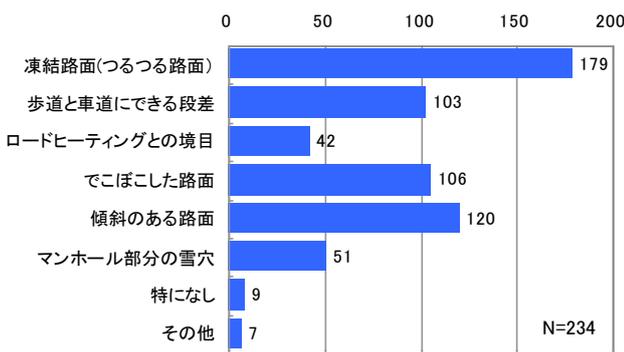


図-4 アンケート調査結果：冬道で解消してほしい路面

3 外出機会創出に向けた取り組み

3.1 歩行支援マップの試作

調査結果から、雪道での転倒防止に関する対策が必要であることがあらためて明確となったほか、従来判明していた凍結の有無だけでなく、傾斜や段差等の「歩きにくい場所」に関するニーズのあることがわかった。そこでこれらを地図情報として提供することが効果的と考え、札幌市中心部の南北1.2km×東西0.7kmを対象に、冬期積雪時に

現地調査を実施し、その結果を元に歩行支援マップを試作した(図5)。現地調査は調査員が対象個所を実際に歩行し、目視で確認しながら、路面状態や危険個所の有無を地図上にチェックした。



図-5 試作した札幌都心部冬期歩行支援マップ

3.2 歩行支援マップの評価

試作したマップを、60歳以上の高齢者27名へ配布し、意見等を聴取した。その結果、有用性や印刷物であることは評価されたものの、文字や記号等を大きくしてほしいという意見がでた。

4 まとめ

高齢化社会における冬期の外出機会創出に向けた調査研究として高齢者等を対象とした予備調査を実施した。その結果、高齢者のニーズは凍結による転倒防止だけでなく、歩行全体に関わることがわかった。対策の一環として高齢者でも利用可能な地図を試作したところ、印刷物という形態には一定の評価を得たが、文字の大きさや見やすさ等の改善要望が寄せられた。今後は、これら意見を踏まえ、マップを改良し、高齢者の転倒防止、外出機会創出につなげていきたいと考えている。

謝辞

この場をお借りして、予備調査にご協力いただいた皆様へ感謝申し上げます。本調査研究は、「平成23年度雪国の安全安心な暮らし確保のための克雪体制推進調査～札幌市内における高齢者等の冬期外出機会創出に向けた調査検討(国土交通省)」として実施したものである。